第 74 回剣道指導者研修会（長野） 報告書

実施期間　令和 4 年 10 月 22 日（土）～10 月 23 日（日）
実施場所　長野県 ことぶきアリーナ千曲 剣道場
実施内容

本研修会は指導力・技術の向上を目的とし、昭和 59 年度の第 1 回より全日本少年剣道錬成会館で開催していたが、令和元年度の 11 月に第 72 回を開催したあと、新型コロナウイルス感染症拡大の為、令和 2 年 3 月の第 73 回を開催直前に中止し、以降開催出来ずにいたが、今回 1 泊 2 日で地方において開催をする方法をとり、3 年ぶりに第 74 回として長野県千曲市にて開催する運びとなった。

1 日目 12 時、講師及び、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。13 時からの開講式では、主管県長野県剣道道場連盟 事務局司会のもと、降旗滋隆 長野県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶があった。

続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を含んだ挨拶があり、引き続き事務局より講師紹介、日程の説明の後、早速講習に入った。

1 日目、実技指導の立会いをおこなう前に豊村講師より、受審に向けての講話があった。内容は資料をもとに日頃より縁を切らない稽古をすることが大切だと説明された。その後、全員で準備運動を行い、審査を想定した立会いを、3 会場で研修生を段別、年齢順に班分けし、4 人 1 組で審査さながらの形式で行った。5 段以下の組を小山講師、6 段の組を石井講師と栗田講師、7 段の組を豊村講師が担当し、1 組終了するごとに只今の立会いについて担当講師より、懇切丁寧なアドバイスがあった。審査員として経験豊かな講師のアドバイスは的確であり、今後の修業課題として大いに糧になることと思う。立会い終了後、1F の大アリーナが使用可能となったので移動をし、研修生同士の周り稽古を数回実施。その後、講師の元立ちで指導稽古を 40 分程行って 1 日目を終了した。

2 日目の講習は、日本剣道形の講習より行われた。まず豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点、を説明した後、栗田講師を助手として、数本ごとにポイントや注意点を実践説明し、その後、段別に組まれた者同士で 5 段以下を小山講師、6 段を石井講師、7 段を栗田講師が担当し、それぞれ実技指導をする形で行われ、大太刀 7 本、小太刀 3 本の全てを修練し午前中の講習を終えた。

午後は、準備運動の後、審査を想定した二回目の立会いを実施した。受講生は各自、自分の力を出し切っていたようにであった。1組終わるごとに講師から前日同様、懇切なアドバイスを受けて 1 時間 30 分程の立会いを修了し、休憩の後、集合写真を撮り、栗田講師による基本指導が 15 分程行われ、最後に講師元立ちによる指導・相

互稽古を 40 分間行い、稽古終了後、「閉講式」が行われ、降旗滋隆長野県剣道道場連盟会長が受講生を代表して、講師陣に謝辞が述べられ、講評として栗田全道連常務理事より、来月からの審査に臨む方には、審査会場に入ったら帰るまで気抜かず、絶対に段を頂くんだと強い気持ちをもって臨んで頂きたいと激励の言葉と、開催と参加の謝辞が述べられ予定通り、15 時 20 分に終了した。

コロナが完全終息に至らない中、感染対策を講じながらの講習となったが、この先のウィズコロナでの研修会のベースとなる剣道道場指導者研修会になったと思う。

又、今回の研修会において長野県警の若手の剣道特錬生が多く参加され、講師の付け人や設営準備、運営にお手伝い頂き、スムースに研修会を進められた事は今後の県内の道場連盟と警察剣道との一層深い繋がりになるのではとの期待を持たせ、当初の目的以上の成果を残せたのではないかと感じる次第である。

最後に今回の講習会において、講習会の告知から準備をして頂いた長野県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様に深く感謝の意を表します。

受講生　　94 名

本部講師	豊村　東盛	範士八段	栗田和市郎　範士八段
講　　師	石井　　猛	教士八段	小山　則夫　教士八段

第 75 回剣道指導者研修会　報告書

ａ実施期間　　令和４年１１月１２日（土）～１１月１３日（日）
ｂ実施場所　　全日本少年剣道錬成会館
ｃ実施内容

指導力・技術の向上を目的とした、剣道指導者研修会を全日本少年剣道錬成会館で開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和２年より中止していた本講習は、１０月に感染拡大防止の配慮により例外的に長野に場所を移して行った第７４回を経て、東京日野市の全日本少年剣道錬成会館での実施は３年ぶりとなった。感染対策のため宿泊を要する者は各自ホテルに泊まることとし、例年３日間の日程で行っていた講習内容は木刀による剣道基本技稽古法などを除き、２日間に短縮した。通常より短い講習となったが、短時間に凝縮された実りある講習となった。

講習初日の１１月１２日、石田利也講師、中村福義講師の到着後、本部講師である岩立三郎講師、豊村東盛講師、栗田和市郎講師の全講師による打ち合わせを経て、予定通り１３時００分に開講式が始まった。岩立三郎講師より全日本剣道道場連盟副会長として挨拶を頂いた後、講師陣を紹介し早速講習に移った。

まず、初日のみの講師となる中村講師による講話が行われた。中村講師は、自身が三代目として館長を務め、百年以上の歴史を持つ東京修道館の設立経緯を紹介すると共に、東京修道館で指導に携わってこられた名だたる先生方の当時の稽古の様子や逸話、中村講師が受けた指導、その時にかけられた記憶に残る言葉、貴重な経験など研修生の今後の修行の参考となるエピソードの数々を惜しみなく伝えた。

中村講師の講話後、１４時５分よりまず栗田和市郎講師指揮のもと準備体操で体をほぐし、早速審査を想定した立会いを行なった。岩立講師、中村講師、栗田講師が担当する第１グループ、豊村講師、石田講師が担当する第２グループに分け、２会場で実施した。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず剣道技術向上や普段の稽古で留意する点に関する的確な指摘が、各講師から研修生ひとりひとりに懇切丁寧に説明された。

立会い終了後、１６時１０分よりまず七段元立ちによる研修生同士の稽古を実施した。参加人数が多いため、七段元立ちを交代し、約２分に区切った稽古を行った。その後、講師元立ちにより指導稽古を行い、初日を終了した。終了後は参加者全員の退館後、翌日の２日目講習に向けて感染対策のため道場、控室を含む全館の消毒、および掃除を行った。

二日目は、９時より石田講師による講話から開始した。石田講師は選手としても出場し団体優勝した経験を持つ世界剣道選手権大会について、２０１５年東京開催、および２０１８年の韓国開催で監督に二度任命された際の選手の選出、候補者の今後をふまえた心のサポート、コーチとの連携、絶対優勝のプレッシャーの経験といった、他では決して聞くことのできないエピソードの数々を５０分に亘り紹介した。各道場で指導にあたる指導者である研修生は、世界最高峰の指導経験を聞き、各道場の少年剣道指導や活動に活かす非常に大きな参考となったことと思う。

引き続き、豊村講師解説のもと日本剣道形に移った。研修生を場所の都合で２組２列の２グループに分け、交代で行った。豊村講師が実際に範を示しながら注意点を解説し、豊村講師、栗田講師が模範演武を行い、各研修生は号令に合わせて仕打を交代しながら注意点に留意し、繰り返し形を行った。豊村講師、栗田講師が各組に対しポイントを指導し、高段者はまず形を覚えていることが当然である等、厳しいコメントも伝えられた。

昼食時間を挟み、午後の部は岩立講師による講話から開始した。８３歳になられた岩立講師は、少年剣道から高齢者剣道まで、長年に亘り全身全霊で剣道指導にあたられてきた経験をふまえ、指導者としての目標や指導にあたる者として目指している心構え、このようにありたいと自身が望んでいる在り方などを、惜しみなく研修生に伝え約６０分の熱ある講話を終えた。

引き続き、予定を押して１３時１５分頃より、前日の組み合わせを入れ替え、異なる担当講師、異なる相手により、本講習２回目の立会い指導が行われた。中村講師は初日のみの指導であったため、岩立講師、栗田講師の第１グループ、石田講師、豊村講師の第２グループ合計１４組の立会いに、ひとりひとり初日をふまえた懇切丁寧な指導が行われ、１５時頃立会い稽古を終了した。

朝の講話開始から内容の濃い充実した講習が行われ予定時間を押していたため、終了予定時間を変更し、飛行機等の予定がある者は途中退席をするよう、豊村講師より伝えられた。

初日同様に七段元立ちを交代しながらの研修生相互稽古を行い、その後特別講師として矢野雅之特別講師、東原竜司特別講師が加わり、１６時まで講師元立ちによる指導稽古を実施した。講師陣が増え、また最終稽古、限られた時間であることから、熱気ある指導稽古となった。

閉講式では、講師を代表し、岩立講師より講評が述べられた。「忙しいなか稽古の時間を作れないこともあると思うが、それを言い訳にせず日々の生活に工夫を取り入れ、審査などの目標に向かって欲しい」旨、研修生に伝えられ、１６時１５分、２日間に亘る研修会のすべてを終了した。

東京において実施された当連盟３年ぶりの研修会であったことから、初日、二日目併せて想定以上の研修生に参加頂いた。研修会終了後、体調不良等の報告もなく、講師陣のご協力のもとコロナ禍として無事盛会裏に本年の指導者研修会を終了した。

ｄ参加人数　５６名

講　　師	石田　利也	範士八段
	中村　福義	教士八段
特別講師	矢野　雅之	教士八段
	東原　竜司	教士八段
本部講師	岩立　三郎	範士八段
	豊村　東盛	範士八段
	栗田　和市郎	範士八段

関東地区（埼玉）剣道道場指導者講習会報告書

実施期間　　令和４年９月 10 日（土）～9 月 11 日（日）
実施場所　　解脱錬心館
実施内容

本講習会は関東地区の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし埼玉県剣道道場連盟主管のもと実施され、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため健康チェックシートの提出、マイ審判旗や木刀の持参、消毒といった感染対策を講じての講習会となった。

1 日目 12 時、本部講師及び地元講師、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。

13 時からの開講式では、主管県埼玉県剣道道場連盟 事務局司会のもと、神山芳男埼玉県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶があった。続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を含んだ挨拶があった。引き続き事務局より講師紹介、早速講習に入った。

1 日目は審判実技講習を中心として実施した。まず豊村講師により全日本剣道連盟制定『新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法』の解説があり、テキストをもとに要点がまとめられた後、13 時 50 分より２試合場に分かれ第１試合場を栗田講師、第２試合場を田中講師、永松講師に担当頂き審判実技に移った。会場を借用した解脱錬心館の協力を得て、門下生の小・中学生が模擬試合を行い、三段～七段の受講生が審判を行った。有効打突の見極めを中心に、所作、位置取りなど各講師から丁寧な指導があり、休憩を挟み約２時間の審判実技講習を行った。

その後、面を着けての基本打ち、受講生同士の回り稽古を数回行い、講師が元立ちになり指導稽古、終わった者から相互稽古を約 40 分行い 1 日目の講習を終了した。

2 日目の講習は引き続き審判実技講習から開始した。豊村講師より、初日の審判実技を見ての補足、とくに発声の大きさ、旗の表示、タイミング等について全体に再度説明があった後、1 日目と同様の形式で３名の講師により審判実技について約１時間半、細やかな指導が行われた。

昼食休憩の後、午後は日本剣道形の実技講習から開始した。限られた時間の中ではあったが、太刀七本、小太刀三本全てについて豊村講師より、豊村講師、栗田講師の模範演武を交えて解説があり、段位別に４グループに分かれ、それぞれ

高段のグループから豊村講師、栗田講師、田中講師、永松講師が指導した。

その後、八段受審を予定している七段の受講生から希望者を募り、審査を想定した４組の立合いが行われた。立合いをしない受講生は見取り稽古とし、立合いを行った８名の受講生に対し豊村講師、栗田講師よりそれぞれ審査に向けてポイントを押さえたアドバイスが伝えられた。

最後に、初日同様に全体の基本稽古の後、講師元立ちによる指導稽古、相互稽古を合計 40 分間行った。

閉講式では豊村講師より修了証が受講生代表に授与され、栗田全道連常務理事より、来年度に埼玉県において実施する全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会の開催にあたり、県連盟役員、審判員をはじめ開催地へのご協力のお願いと共に、本講習の開催と参加の謝辞が述べられた。終わりに神山埼玉道連会長より、この講習や大会開催を、県内だけでなく全国といった広い範囲に目を向けるきっかけにして頂けることを願う旨、挨拶が述べられ、15 時 35 分に終了した。

コロナ禍での稽古、講習も増えており、多くの関係者にとって審判旗の持参といった感染対策が定着してきていると感じられる講習となった。埼玉県剣道道場連盟役員、事務局、開催地としてご協力頂いた解脱錬心館関係者皆様の細やかで丁寧なご準備、ご配慮により、２日間が滞りなく終了した。

本講習は支部内の交流の場にもなったものと感じられ、来年の埼玉主管大会開催も視野に入れ、支部内、全道連本部とも相互の関係を深めた地区剣道道場指導者講習会となった。

最後に、今回の講習会に際し、講習会の告知から労をお取り頂いた埼玉県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様に改めて深く感謝の意を表します。

受講生　　67 名

講　　師	豊村　東盛	範士八段	栗田和市郎	範士八段
地元講師	田中　宏明	教士八段	永松　教孝	教士八段

四国地区（愛媛）剣道道場指導者講習会報告書

実施期間　　令和 4 年 12 月 3 日（土）～12 月 4 日（日）
実施場所　　砥部町　陶街道ゆとり公園　武道場
実施内容

本講習会は四国地区の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし愛媛剣道道場連盟主管のもと実施され、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため健康チェックシートの提出、マイ審判旗や木刀の持参、消毒といった感染対策を講じての講習会となった。

1 日目 13 時、本部講師及び地元講師、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。

13 時 30 分からの開講式では、主管県の愛媛県剣道道場連盟 白石将人先生司会のもと、主管県会長であり本講習会の地元講師である白石武平太先生より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶があった。続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を含んだ挨拶があった。引き続き事務局より講師紹介、スケジュールの確認を行った後、早速講習に入った。

1 日目は審判実技講習を中心として実施した。まず豊村講師により全日本剣道連盟制定『新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法』の解説があり、テキストをもとに要点がまとめられた後、質疑応答を行い、14 時 30 分より２試合場に分かれ第１試合場を大城戸講師、第２試合場を米倉講師に担当頂き、試合場への入退場の仕方、旗の上げ下げ、位置取りや所作等の説明と諸注意が行われた後に審判実技に移った。講習は受習生が模擬試合と審判を交替で行う形で進められ、有効打突の見極めを中心に、所作、位置取りなど各講師から丁寧な指導があり、約 1 時間 30 分の審判実技講習を行った。

その後、面を着け七段の受講生元立ちで相互の稽古を約２０分行った後、講師元立ちの指導稽古を約 40 分行い 1 日目の講習を終了した。

2 日目の講習は午前と午後のスケジュールを一部入れ替え、午前９時より日本剣道形の実技講習から開始した。まず豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点を説明した後、受講生の技量を確認するために全員で太刀7本の実技を行った後再度、受講生を集合させ構え、素振りについて講師が示範をしながら受講生が実際にそれを行い確認した後、大城戸講師を助手として、大太刀７本、小太刀 3 本を数本ごとにポイントや注意点を示範説明した後、受講生が実技を行う方法で約1時間行った。休憩をはさみ、受講生を3組に分け、それぞれの組を大城戸講師、

米倉講師、白石講師が担当し、実技指導をする形で、約1時間ではあったが細かい指導が行われ午前中の講習を終了した。

昼食休憩の後、午後は審判実技講習が行われた。講習は１日目同様、２試合場に分かれそれぞれの試合場を大城戸講師、米倉講師が担当し、初日の審判実技を見ての補足をしながら約１時間半、細やかな指導が行われた。

最後に、初日同様に七段元立ちでの相互稽古を約２０分。講師元立ちによる指導稽古を約４０分行った後、閉講式が行われた。

閉講式では講師を代表して大城戸講師より柳生流の三磨の位を例に、習い、工夫、稽古を繰り返しながら剣道修行に励み技量を高め、各地域の剣道発展に尽力して頂きたい旨の講評が述べられた。終わりに白石武平太愛媛道連会長より、今回の講習で学んだことを各自の稽古に生かし、また、各道場の門下生(子供たち)への指導にも生かして頂きたい旨、挨拶が述べられ、15 時に終了した。

コロナ禍での稽古、講習も増えており、多くの関係者にとって審判旗の持参といった感染対策が定着してきていると感じられる講習となった。愛媛県剣道道場連盟役員、事務局と愛媛道連会員の皆様の細やかで丁寧なご準備、ご配慮により、２日間が滞りなく終了した。

最後に、今回の講習会に際し、講習会の告知から労をお取り頂いた愛媛県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様に改めて深く感謝の意を表します。

受講生　　81 名

講　　師	豊村　東盛	範士八段
地元講師	大城戸　功	範士八段
	米倉　　滋	教士八段
	白石武平太	教士七段